

Operations Manager 2007 用 System Center Data Protection Manager 2010 管理パック ガイド

Microsoft Corporation

発行: 2010 年 8 月

このドキュメントに関するご意見、ご感想を mpgfeed@microsoft.com までお送りください。

著作権

本ドキュメントは、"現状のまま" 提供されます。本ドキュメントに記載されている情報および見解 (URL およびその他のインターネット Web サイトの参照先を含む) は、予告なく変更されることがあります。お客様は、本ドキュメントの使用に関するリスクを負うものとします。

本ドキュメントで使用している例の一部はあくまでも例であり、架空のものです。実在するものとは一切関係ありません。

本ドキュメントは、マイクロソフト製品に含まれる知的財産に対する法的権限を付与するものではありません。お客様は、内部で使用する参考資料として本ドキュメントをコピーすることができます。お客様は、内部で使用する参考資料として本ドキュメントを変更することができます。

© 2010 Microsoft Corporation. All rights reserved.

Microsoft、Active Directory、Hyper-V、MS-DOS、SharePoint、Windows、および Windows Server は、米国 Microsoft Corporation およびその関連会社の商標です。

その他の商標はそれぞれの所有者に帰属します。

目次

[DPM 2010 管理パック ガイド 4](#_Toc284409336)

[ドキュメントのバージョン 4](#_Toc284409337)

[System Center Data Protection Manager 2010 管理パックの概要 4](#_Toc284409338)

[最新の管理パックおよびドキュメントをダウンロードする 4](#_Toc284409339)

[管理パックをインポートするには 5](#_Toc284409340)

[新機能 5](#_Toc284409341)

[サポートされる構成 6](#_Toc284409342)

[始める前に 7](#_Toc284409343)

[このセクションの内容 7](#_Toc284409344)

[System Center Data Protection 2010 管理パックをインポートする方法 7](#_Toc284409345)

[チケット発行環境の場合 8](#_Toc284409346)

[非チケット発行環境の場合 8](#_Toc284409347)

[スケール アップされた環境の場合 9](#_Toc284409348)

[関連項目 10](#_Toc284409349)

[カスタム設定用の新しい管理パックの作成 10](#_Toc284409350)

[関連項目 11](#_Toc284409351)

[モニターとルールのカスタマイズ 11](#_Toc284409352)

[モニターまたはルールを変更するには 12](#_Toc284409353)

[関連項目 12](#_Toc284409354)

[管理パックの操作の概要 12](#_Toc284409355)

[管理パックの監視機能 13](#_Toc284409356)

[状態監視の定義 13](#_Toc284409357)

[アラートを手動で解決する 14](#_Toc284409358)

[関連項目 14](#_Toc284409359)

[管理パックで検出されるオブジェクト 14](#_Toc284409360)

[ヘルス状態のロールアップのしくみ 16](#_Toc284409361)

[主要な監視の事例 16](#_Toc284409362)

[アラート ルール グループ 16](#_Toc284409363)

[サーバー ルール グループ 20](#_Toc284409364)

[サービス検出ルール グループ 21](#_Toc284409365)

[トラブルシューティング 21](#_Toc284409366)

# DPM 2010 管理パック ガイド

『Operations Manager 2007 用 System Center Data Protection Manager 2010 (DPM) 管理パック ガイド』では、DPM 管理パックを使用して、DPM サーバーと DPM サーバーによって保護されるコンピューターについてデータの保護および回復の状態を監視する方法、および、DPM サーバーの主要なヘルス インジケーターとパフォーマンス インジケーターを監視する方法を説明します。

このガイドでは、DPM 管理パックの概要について説明し、既存の System Center Operations Manager 2007 R2 環境に管理パックを展開するための手順を示します。また、コンピューター属性、コンピューター グループ、通知先グループ、および DPM 管理パックの動作を定義するルールについて、それらのテクニカル リファレンスを提供します。

## ドキュメントのバージョン

このガイドは、System Center Data Protection Manager 2010 管理パックに基づいています。

改訂履歴

|  |  |
| --- | --- |
| リリース日 | 変更 |
| 2010 年 8 月 | このガイドの元のリリース |

# System Center Data Protection Manager 2010 管理パックの概要

『System Center Data Protection Manager (DPM) 2010 管理パック ガイド』では、DPM 2010 管理パックを使用して、DPM サーバーと DPM サーバーによって保護されるコンピューターについてデータの保護および回復の状態を監視する方法、および、DPM サーバーの主要なヘルス インジケーターとパフォーマンス インジケーターを監視する方法を説明します。

## 最新の管理パックおよびドキュメントをダウンロードする

System Center Data Protection Manager 2010 管理パックは、「[System Center Operations Manager 2007 Catalog (System Center Operations Manager 2007 カタログ)](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=82105)」 (http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=82105) にあります。

## 管理パックをインポートするには

1. Operations Manager 2007 R2 管理グループの Operations Manager 管理者ロールのメンバーであるアカウントを使用して、コンピューターにログオンします。

2. オペレーション コンソールで、[管理] をクリックします。

注意

管理サーバーではないコンピューターでオペレーション コンソールを実行した場合は、[サーバーに接続する] ダイアログ ボックスが開きます。[サーバー名] ボックスに、オペレーション コンソールの接続先となる Operations Manager 2007 管理サーバーの名前を入力します。

3. [操作] ウィンドウで、[管理パックのインポート] をクリックし、管理パックの場所を参照して、[開く] をクリックします。

注意

DPM 2010 管理パックのファイル名は、Microsoft.Windows.SystemCenterDPM2010.mp です。

4. [管理パックのインポート] ダイアログ ボックスに、選択した管理パックが表示されます。このダイアログ ボックスで、[追加] または [削除] をクリックして、インポートする管理パックの一覧を編集します。インポートする管理パックを選択して、[インポート] をクリックします。

5. インポート処理が完了すると、ダイアログ ボックスの各管理パック名の横に、インポートの成功または失敗を示すアイコンが表示されます。[閉じる] をクリックします。

# 新機能

 DPM 2010 管理パックを使用すると、サービス レベル アグリーメント (SLA) ベースのアラートおよび重複エラーの抑制を使用することで、コンソールに表示される不必要なアラートの数を減らすことができます。

SLA ベースのアラートでは、特定の期間に特定のジョブが失敗したときにだけアラートが表示されます。

重複エラー抑制を使用すると、根本的原因のイベントへの対応として生成されるアラートが抑制されます。たとえば、DPM 保護エージェント サービスにアクセスできない場合や、保護コンピューターが動作しておらず、すべてのデータ ソースのバックアップ ジョブが失敗する場合などに、データ ソース固有のアラートを生成することなく、影響を受ける各データ ソースの状態を更新します。

 DPM2010: 回復ポイントの作成エラー (アラートなし)

 DPM 2010: 回復ポイントの作成エラー (優先順位付き)

 DPM2010: レプリカに整合性がありません (3106)

 DPM 2010 : レプリカに整合性がありません

 DPM 2010: 同期エラー (アラートなし)

 DPM2010: 同期エラー (3115)

 チケット発行システムと Operations Manager を使用している場合は、DPM 2010 管理パックでモニターの代わりにルールを使用できます。使用できる管理パックのルールは以下のとおりです。

 DPM 2010: 回復ポイントの作成に失敗しました (しきい値を超えました)

 DPM 2010: レプリカに整合性がありません (しきい値付き)

 DPM 2010: 同期エラー (しきい値付き)

注意

既定では、モニターが有効になります。ルールを使用する場合は、ルールを有効にする必要があります。

 以下は、このリリースの DPM 2010 管理パックに含まれている新しいアラートです。

 バックアップ メタデータを列挙できませんでした

 エージェントの所有権が必要です

 レプリカが割り当てられ、最初のレプリケーションがスケジュールされました

 共有のパスが変更されました

 重複するディスクを検出しました

 VHD 親ロケーターを修正できませんでした

 仮想マシン メタデータを列挙できませんでした

 VHD 親ロケーターの修正が取り消されました

 SharePoint 項目レベルのカタログ化に失敗しました

 ライター メタデータなしのバックアップ

 カスタマー フィードバックのオプトイン

 バックアップの SLA を満たしていません

 Hyper-V の回復が成功しました

 "グローバルな DPMDB データベースにアクセスできません" アラート通知

 ステージング領域の復元が進行中です

 ステージング領域の復元が成功しました

 ステージング領域の一部の復元が成功しました

 ステージング領域の復元が失敗しました

 自動インスタンス保護が失敗しました

 DPM オンライン回復ポイントの作成エラー

 DPM オンライン キャッシュのボリュームが見つかりません

 部分バックアップが成功しました

 ライブラリ デバイスが無効になりました

# サポートされる構成

次の表に、Operations Manager 2007 の電源管理パックでサポートされる構成の詳細を示します。

|  |  |
| --- | --- |
| 構成 | サポート |
|  Windows Server 2008 R2 | すべてのエディション、32 ビット版および 64 ビット版 |
| クラスター化されたサーバー | サポートされています |
| エージェントレスの監視 | サポートされていません |
| 仮想環境 | サポートされています |

# 始める前に

System Center Data Protection Manager 2010 (DPM) 管理パックは、Microsoft System Center Operations Manager 2007 の [管理] ウィンドウからインストールできます。

DPM 2010 管理パックのインストールが完了すると、DPM 2010 によって保護されるすべてのコンピューターの状態を監視できるようになります。

## このセクションの内容

[System Center Data Protection 2010 管理パックをインポートする方法](#za449c74e9e254384a7420fd6814ffb18)

|  |
| --- |
| DPM 2010 管理パックをインポートする方法について説明します。 |

[カスタム設定用の新しい管理パックの作成](#zba60d80ac0fa4e8d94022447667e3c64)

|  |
| --- |
| カスタマイズする封印済み管理パックごとに個別の管理パックを作成する方法について説明します。 |

# System Center Data Protection 2010 管理パックをインポートする方法

管理パックをインストールする方法の詳細については、『Operations Manager 2007 R2 Operations ユーザー ガイド』の「[Operations Manager 2007 で管理パックをインポートする方法](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=142351)」(http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=142351) を参照してください。

DPM 2010 管理パックをインポートしたら、以下の手順に従って初期構成を完了します。

1. 新しい管理パックを作成します。

2. 新しい管理パックに上書きやその他のカスタム設定を格納します。

## チケット発行環境の場合

System Center Operations Manager と一緒にチケット発行システムを使用する場合は、アラートの重複を防ぐルールを有効にして、モニターを無効にする必要があります。次の表に、チケット発行環境で有効にすべきオプションと無効にすべきオプションを示します。

|  |  |
| --- | --- |
| アラート | スイッチ |
| DPM 2010: 回復ポイントの作成に失敗しました (しきい値を超えました) | 有効 |
| DPM 2010: レプリカに整合性がありません (しきい値付き) | 有効 |
| DPM 2010: 同期エラー (しきい値付き) | 有効 |
| DPM 2010: 回復ポイントの作成エラー (アラートなし) | 有効 |
| DPM 2010: レプリカに整合性がありません (アラートなし) | 有効 |
| DPM 2010: 同期エラー (アラートなし) | 有効 |
| DPM 2010: 同期エラー (3115) | 無効 |
| DPM 2010: 回復ポイントの作成に失敗しました (3114) | 無効 |
| DPM 2010: レプリカに整合性がありません (3106) | 無効 |
| DPM 2010: 同期エラー (優先順位付き) | 無効 |
| DPM 2010 : レプリカに整合性がありません | 無効 |
| DPM 2010: 回復ポイントの作成エラー (優先順位付き) | 無効 |

## 非チケット発行環境の場合

非チケット発行環境で、DPM の各アラートを System Center Operations Manager のアラートと対応させる場合は、次のように管理パックを設定します。

|  |  |
| --- | --- |
| アラート | スイッチ |
| DPM 2010: 同期エラー (3115) | 有効 |
| DPM 2010: 回復ポイントの作成に失敗しました (3114) | 有効 |
| DPM 2010: レプリカに整合性がありません (3106) | 有効 |

サービス レベル アグリーメント (SLA) ベースの監視機能を実装する場合は、次のように管理パックを設定します。

|  |  |
| --- | --- |
| アラート | スイッチ |
| DPM 2010: 同期エラー (3115) | 無効 |
| DPM 2010: 回復ポイントの作成に失敗しました (3114) | 無効 |
| DPM 2010: レプリカに整合性がありません (3106) | 無効 |
| DPM 2010: 同期エラー (優先順位付き) | 有効 |
| DPM 2010 : レプリカに整合性がありません | 有効 |
| DPM 2010: 回復ポイントの作成エラー (優先順位付き) | 有効 |

## スケール アップされた環境の場合

スケール アップされた環境の場合は、次のように管理パックを設定します。

Operations Manager サーバー

|  |  |
| --- | --- |
| ヘルス サービスの Handle Count のしきい値 | 5000 |
| ヘルス サービスの Private Bytes のしきい値 | 1 GB |
| ホスト Handle Count しきい値の監視 | 5000 |
| ホスト Private Bytes のしきい値の監視 | 1 GB |

DPM サーバーでの設定

レジストリ キー "HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\HealthService\Parameters\State Queue" を 4096 に設定します。

レジストリ キー "HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\HealthService\Parameters\Management Groups\<MG>\MaximumQueueSizeKb" を 150000 に設定します。

レジストリ キー "HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\HealthService\Parameters\Persistence Version Store Maximum" を 400 MB に設定します。

ヒント

ヘルスサービスが構成ファイルを再ロードするときに 623 エラー イベントが発生する場合は、この値を大きくします。

## 関連項目

[モニターとルールのカスタマイズ](#z70073d753b60411c9b7b870b1af284a3)

[Operations Manager 2007 管理サーバーのエンティティ ヘルス モニターに、ヘルスサービスのしきい値設定と一緒に "重要" と表示されます。](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=201698)

# カスタム設定用の新しい管理パックの作成

ほとんどのベンダー管理パックは、管理パック ファイル内の元の設定を変更できないように封印されています。ただし、オーバーライドや新しい監視オブジェクトなどのカスタム設定を作成して、別の管理パックに保存することはできます。既定では、すべてのカスタム設定が既定の管理パックに保存されます。最善策として、カスタマイズする封印済み管理パックごとに個別の管理パックを作成することをお勧めします。

オーバーライドを格納するための新しい管理パックを作成すると、以下のような利点があります。

 テスト環境で作成したカスタム設定を運用環境に簡単にエクスポートできます。たとえば、複数の管理パックのカスタム設定を含む既定の管理パックをエクスポートするのではなく、1 つの管理パックのカスタム設定を含む管理パックだけをエクスポートできます。

 管理パックにカスタム設定が含まれていない場合は、事前に既定の管理パックを削除することなく、元の管理パックを削除できます。

カスタム設定が含まれている管理パックは、元の管理パックに依存します。そのため、元の管理パックを削除するには、先にカスタム設定が含まれている管理パックを削除する必要があります。すべてのカスタム設定が既定の管理パックに保存されている場合は、既定の管理パックを削除してから、元の管理パックを削除する必要があります。

 個々の管理パックのカスタム設定の追跡および更新が簡単になります。

封印されている管理パックおよび封印されていない管理パックの詳細については、「[Management Pack Formats (管理パックの形式)](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=108355)」(http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=108355) を参照してください。管理パックのカスタム設定および既定の管理パックの詳細については、「[About Management Packs in Operations Manager 2007 (Operations Manager 2007 の管理パック)](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=108356)」(http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=108356) を参照してください。

## 関連項目

[モニターとルールのカスタマイズ](#z70073d753b60411c9b7b870b1af284a3)

# モニターとルールのカスタマイズ

DPM 2010 管理パックでは、6 つの SLA ベース モニターと 3 つのルールを使用できます。これらは、特定のジョブが特定の期間に連続して失敗した場合にのみ表示されます。既定では、この期間は 24 時間に設定されます。SLA の期間は、ニーズに合わせて変更できます。

|  |  |
| --- | --- |
| アラート | 説明 |
| DPM 2010: 同期エラー (優先順位付き) | このモニターは、根本的原因が別の場所にある場合に、"回復ポイントの作成に失敗しました" アラートを抑制します。根本的原因のアラートは別に生成されます。 |
| DPM2010: 回復ポイントの作成エラー (アラートなし) | このモニターは、回復ポイントの作成が失敗した場合に、データ ソース オブジェクトのヘルス状態を更新します。たとえば、DPM 保護エージェントにアクセスできない場合や、保護コンピューターが動作しておらず、すべてのデータ ソースのバックアップ ジョブが失敗する場合などに、データ ソース固有のアラートを生成することなく、影響を受ける各データ ソースの状態を更新します。 |
| DPM 2010 : レプリカに整合性がありません | このモニターは、レプリカ データとそのソース データに整合性がなく、根本的原因が別の場所にある場合に、"レプリカに整合性がありません" アラートを抑制します。根本的原因のアラートは別に生成されます。 |
| DPM 2010: レプリカに整合性がありません (アラートなし) | このモニターは、レプリカに整合性がない場合に、データ ソース固有のアラートを生成することなくデータ ソースの状態を更新します。たとえば、保護エージェントにアクセスできない場合や、保護コンピューターが動作しておらず、すべてのデータ ソースのバックアップ ジョブが失敗する場合などに、データ ソース固有のアラートを生成することなく、影響を受ける各データ ソースの状態を更新します。 |
| DPM 2010: 同期エラー (優先順位付き) | このモニターは、根本的原因が別の場所にある場合に、同期エラー アラートを抑制します。根本的原因のアラートは別に生成されます。 |
| DPM 2010: 同期エラー (アラートなし) | このモニターは、同期エラーが発生した場合に、データ ソース オブジェクトのヘルス状態を更新します。たとえば、保護エージェントにアクセスできない場合や、保護コンピューターが動作しておらず、すべてのデータ ソースのバックアップ ジョブが失敗する場合などに、データ ソース固有のアラートを生成することなく、影響を受ける各データ ソースの状態を更新します。 |
| DPM 2010: 回復ポイントの作成に失敗しました (しきい値を超えました) |  |
| DPM 2010: レプリカにしきい値との整合性がありません |  |
| DPM 2010: 同期エラー (しきい値付き) |  |

## モニターまたはルールを変更するには

1. 変更するモニターまたはルールをダブルクリックします。

2. [プロパティ] ダイアログ ボックスの [構成] タブで、[構成] をクリックします。

3. [構成] ダイアログ ボックスに表示されるすべてのパラメーターの名前と値を書き留めます。

4. 変更するモニターまたはルールとまったく同じ値のモニターまたはルールを新しく作成します。パラメーター 15 の値は 86400 (1 日) です。この値を変更して、SLA を変更できます。

## 関連項目

[Operations Manager 2007 で単純な Windows イベント ユニット モニターを作成するには](http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=196758)

# 管理パックの操作の概要

DPM 管理パックを使用すると、管理者は、複数の DPM サーバーとそれらのサーバーによって保護されるコンピューターについて、データの保護および回復の状態を集中的に監視できます。また、管理パックでは、DPM サーバーの主要なヘルス インジケーターとパフォーマンス インジケーターも監視されます。

DPM サーバーについては、DPM 管理パックによって、DPM データベースの状態、サービスのヘルス、サーバーのパフォーマンスなどが監視されます。また、ディスクの可用性や、DPM によって保護されているボリュームへの構成変更などの重要なインジケーターも監視されます。保護コンピューターについては、DPM 管理パックによって、DPM との接続の状態、保護ボリュームに対するデータ回復操作、および DPM サーバーに格納されているレプリカと回復ポイントが監視されます。

## 管理パックの監視機能

|  |  |
| --- | --- |
| シナリオ | 監視される状況とタスク |
| DPM サーバーの監視 | DPM で使用されているデータベースが正常であり、保護アクティビティの実行に使用できるか。DPM サービスでエラーが発生していないか。DPM サーバーの CPU 使用率とメモリ使用量が正常なパフォーマンスの範囲内にあるか。DPM 記憶域プールに割り当てられているすべてのディスクに DPM からアクセスできるか。許可されていないユーザーが以前のバージョンの保護データを取得できないように、エンド ユーザーの回復用アクセス許可が更新されているか。保護ボリュームに対する構成変更によって保護が無効になっている可能性がないか。 |
| DPM で保護されているコンピューターでのデータ保護アクティビティの監視 | DPM が保護サーバー上の DPM 保護エージェントに接続して、保護アクティビティを実行できるか。DPM 管理者が以前のバージョンの保護データを DPM 記憶域プールから正常に回復しているか。新しい保護グループを追加したときに最初のレプリカが正常に作成されているか。DPM サーバー上のすべてのレプリカが、保護コンピューター上のデータ ソースと整合性があるか。DPM で保護されているボリュームについて、同期と整合性チェックが失敗していないか。以前のバージョンの保護データ ソースにアクセスできるように、回復ポイントがスケジュールどおりに正常に作成されているか。 |
| リモートの DPM サーバーに関する問題の診断と解決 | リモート DPM サーバーで DPM サービスを開始および停止します。DPM サーバーまたは保護されたコンピューターに ping を実行します。 |

## 状態監視の定義

管理パックでは、次の表に示す定義に基づいて状態が監視されます。

管理パックの状態監視の定義

|  |  |
| --- | --- |
| 状態 | ヘルス状態 |
| 緑 (正常) | 操作は正常に実行中です。 |
| 緑 (情報) | 情報用のアラートが存在し、対処することもできます。 |
| 黄 (警告) | 問題の原因となる可能性のある条件が存在します。 |
| 赤 (重大なエラー) | 深刻な問題があり、直ちに対処する必要があります。 |

## アラートを手動で解決する

アラートを手動で解決する場合、更新された状態はヘルス モニターに自動的に表示されません。このヘルス モニターを更新するには、次の手順に従います。

1. オペレーション コンソールを開きます。

2. 解決するアラートのモニターを選択します。

3. [ヘルス状態のリセット] をクリックします。

## 関連項目

[管理パックで検出されるオブジェクト](#zc3ee1acda61248da98615055dc2fe9cf)

[ヘルス状態のロールアップのしくみ](#zcbdc2dd66ba544cf8236bee51492faa6)

[主要な監視の事例](#za7e93bcac1ba4391ab7de16961a9329d)

# 管理パックで検出されるオブジェクト

DPM 2010 管理パックは、次のオブジェクトの種類を検出します。すべてのオブジェクトが自動的に検出されるわけではありません。自動的に検出されないオブジェクトを検出するには、オーバーライドを使用します。

|  |  |
| --- | --- |
| カテゴリ | オブジェクトの種類 |
| DPMServer | DPM サーバー |
| ProductionServer | DPM 保護エージェントがインストールされているコンピューター |
| データソース | DPM が保護する保護コンピューター上のエンティティ |
| ディスク | 保護されたエンティティが格納されている DPM サーバー上の記憶域 |
| ライブラリ | DPM サーバー上のテープ ライブラリ |
| ドライブ | ライブラリ内のテープ ドライブ |



# ヘルス状態のロールアップのしくみ

DPM 2010 管理パックでは DPM が階層構造で表示され、各層のヘルスがその下位の層に依存します。この構造の最上位は DPM 環境全体 (管理グループ) で、最下位の層にはすべての DPM エージェントが含まれます。下位のいずれかのオブジェクトの状態が大きく変更されると、上位のオブジェクトの状態もそれに応じて変更されます。この動作は、"ヘルス状態のロールアップ" と呼ばれます。

大きな変更とは、オブジェクトの状態が良好から悪い状態 (またはその逆) に変更された場合です。上位の層は、下位の層の変更に応じて変更されます。つまり、下位のオブジェクトの 1 つの状態が悪くなると、その変更が上位のオブジェクトに反映されます。

DPM 管理パックでは、下位オブジェクトの最悪の状態が親インスタンスにロールアップされます。つまり、上位のオブジェクトの下に 5 つのオブジェクトがあり、そのうちの 1 つの状態が悪くなると、上位のオブジェクトの状態が不良と表示されます。

# 主要な監視の事例

管理パックをインポートした後、管理パックによってデータが収集されるまで少なくとも 1 時間かかります。その後 Operations Manager 2007 オペレーション コンソールに監視データが表示されるようになります。[監視] ウィンドウの System Center Data Protection Manager 2010 (DPM) ノードとその子ノードに、DPM 関連のデータが表示されます。

コンピューター属性

DPM 管理パックでは、コンピューターの次の属性が収集されます。

 Microsoft System Center Data Protection Manager

DPM サーバー グループ

DPM 管理パックには次のコンピューター グループが含まれています。

 Microsoft System Center Data Protection Manager 2010 Servers

## アラート ルール グループ

アラート ルール グループ内のルールは、System Center Data Protection Manager (DPM) のユーザーの操作を必要とする可能性のあるすべてのアラートと同じです。そのため、管理者は Microsoft System Center Operations Manager 2007 オペレーション コンソールから、複数の DPM サーバーのデータ保護を監視できます。管理パックでは、ユーザーの操作を必要としないアラートは除外されます。

DPM でのアラートの重要度によって、Operations Manager オペレーション コンソールの対応するアラートの重要度が決まります。

 DPM での警告アラートは Operations Manager での警告アラートです。

 DPM でのエラー アラートは Operations Manager での重大なエラーです。

 DPM での情報アラートは Operations Manager での情報アラートです。

 DPM での非アクティブ アラートは Operations Manager での非アクティブ アラートで、表示されません。

Operations Manager オペレーション コンソールの [アラート詳細] には、製品のサポート技術情報が表示されます。ここには、問題の概要や、考えられる原因、解決方法、その他の情報源など、各アラートに関する総合的な情報が提供されます。

DPM のアラート ルール グループ内のルール

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ルール | 有効かどうか | 重要度 |
| 保護されたコンピューター |  |  |
| DPM アラート 370 : エージェント操作に失敗しました | 有効 | 重大なエラー |
| DPM アラート 3116 : 保護を停止できませんでした | 無効 | 重大なエラー |
| DPM アラート 3118 : レプリカの手動作成が保留中 | 無効 | 情報 |
| DPM アラート 3121 : 互換性のないエージェントです | 有効 | 重大なエラー |
| DPM アラート 3122 : エージェントに接続できません | 有効 | 警告 |
| DPM アラート 3123 : エンド ユーザー回復のアクセス許可を更新できませんでした | 有効 | 警告 |
| DPM アラート 3311 : テープへのバックアップに失敗しました | 有効 | 重大なエラー |
| DPM アラート 3312 : ライブラリ カタログの構築に失敗しました | 有効 | 警告 |
| DPM サーバー |  |  |
| DPM アラート : DPM サーバーの可用性 | 有効 | 重要 |
| DPM アラート 369 : クラスター ノードにエージェントがありません | 有効 | 重大なエラー |
| DPM アラート 24059 : テープの暗号化証明書の期限が切れました | 有効 | 警告 |
| DPM アラート 3168 : データベース サイズがしきい値を超えました | 有効 | 警告 |
| DPM アラート : メモリ使用量 | 有効 | 警告 |
| DPM アラート : プロセッサ使用率 | 有効 | 警告 |
| データ ソース |   |   |
| DPM アラート 3178 : レプリカの回復ポイントの統合が失敗しました | 有効 | 警告 |
| DPM アラート 3111 : 回復エラー | 有効 | 警告 |
| DPM アラート 3165 : 一部の回復が成功しました | 有効 | 警告 |
| DPM アラート 1689: 一部のバックアップが成功しました | 無効 | 警告 |
| DPM アラート 690: 共有のパスが変更されました | 無効 | 警告 |
| DPM アラート 3114 : 回復ポイントの作成エラー | 有効 | 重大なエラー |
| DPM アラート 3114:回復ポイントの作成エラー (アラートなし) | 無効 | 警告 |
| DPM アラート 3114:回復ポイントの作成エラー (しきい値付き) | 無効 | 警告 |
| DPM アラート 3163 : レプリカに整合性がありません | 有効 | 重大なエラー |
| DPM アラート 3163: レプリカに整合性がありません (アラートなし) | 無効 | 警告 |
| DPM アラート 3163: レプリカに整合性がありません (しきい値付き) | 無効 | 警告 |
| DPM アラート 3106 : レプリカの検証中です | 有効 | 重大なエラー |
| DPM アラート 3115 : 同期に失敗しました | 有効 | 警告 |
| DPM アラート 3115: 同期エラー (アラートなし) | 無効 | 標準 |
| DPM アラート 3115: 同期エラー (しきい値付き) | 無効 | 警告 |
| DPM アラート 3161 : ボリュームが見つかりません | 有効 | 重大なエラー |
| DPM アラート 3170 : ジョブの初期化に失敗しました | 有効 | 重大なエラー |
| DPM アラート 3169 : 回復ポイント ボリュームのしきい値を超えました | 有効 | 重大なエラー |
| DPM アラート 3100 : レプリカ ボリュームがしきい値を超えています | 有効 | 警告 |
| DPM アラート 3128 : データ破損が検出されました | 有効 | 警告 |
| DPM アラート : 読み取り中にデータ破損が検出されました  | 有効 | 警告 |
| DPM アラート 1556: ステージング領域の復元が進行中です | 無効 | 警告 |
| DPM アラート 1557: ステージング領域の復元が正常に完了しました | 無効 | 警告 |
| DPM アラート 1558: ステージング領域の一部の復元が成功しました | 無効 | 警告 |
| ディスク |   |   |
| DPM アラート 3120 : ディスクが見つかりません | 有効 | 重大なエラー |
| ライブラリ |   |   |
| DPM アラート 3310 : データ セットのコピーに失敗しました | 有効 | 重大なエラー |
| DPM アラート 3316 : 詳細インベントリが失敗しました | 有効 | 重大なエラー |
| DPM アラート 3305 : 空きメディアのしきい値に達しました | 有効 | 警告 |
| DPM アラート 3301 : ライブラリを使用できません | 有効 | 重大なエラー |
| DPM アラート 3302 : ライブラリが適切に機能していません | 有効 | 警告 |
| DPM アラート 3308 : メディアの消去に失敗しました | 有効 | 重大なエラー |
| DPM アラート 3309 : メディアの検証に失敗しました | 有効 | 重大なエラー |
| DPM アラート 3317 : テープのデータの整合性の問題が検出されました | 有効 | 重大なエラー |
| DPM アラート 3315 : ジョブはテープを待機中です | 有効 | 重大なエラー |
| ドライブ |   |   |
| アラート 3303 : ドライブが機能していません | 有効 | 重大なエラー |

## サーバー ルール グループ

DPM サーバー ルールは、System Center Data Protection Manager (DPM) サービスのヘルス チェックを実行し、データベースの可用性を監視します。次の表では、このルール グループ内のルールについて説明します。

DPM のサーバー ルール グループ内のルール

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ルール | 種類 | 有効かどうか | 重要度 | 説明 |
| DPM サーバーを使用できません | イベント | 有効 | 該当なし | このルールは、DPM データベースまたはサービスを使用できない場合に、Operation Manager でイベントを生成します。DPM サーバー ルールは、この情報を使用してアラートを生成します。アラートの結果として、DPM サーバーの状態が赤に更新されます。 |

## サービス検出ルール グループ

このルール グループには、次の表で示すルールが 1 つ含まれます。このルールは、System Center Data Protection Manager (DPM) 管理パックの管理対象コンピューターに関する情報を収集します。

DPM のサービス検出ルール グループ内のルール

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ルール | 種類 | 有効かどうか | 重要度 | 説明 |
| DPM サーバー検出 | イベント | 有効 | 該当なし | このルールは、ネットワーク上のすべてのサーバーに ping を実行するスクリプトを実行し、DPM 2010 を実行しているコンピューターを識別します。 |
| DPM データ検出 | イベント | 有効 | 該当なし | このルールは、すべての DPM サーバーを識別するスクリプトを実行し、そのサーバー上のオブジェクトの一覧を出力します。このオブジェクトには、保護コンピューター、データ ソース、ドライブ、ディスク、ライブラリなどがあります。 |

# トラブルシューティング

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 問題 | 原因 | 解決方法 |
| SCOM エージェント (ヘルス サービス) が 15 分置きに再起動する | ヘルス サービスが 15 分置きに再起動するのは、System Center Operations Manager のヘルス サービスの Private Bytes Count および Handle Count が既定のしきい値を超えているためです。System Center Operations Manager には、ヘルス サービスの Private Bytes Count と Handle Count を継続的にチェックするモニターがあります。既定のしきい値は、Private Bytes が 100 MB、Handle Count が 2000 です。いずれかのパラメーターが制限を超えると、モニターによって回復操作がトリガーされ、ヘルス サービスが再起動されます。 | Private Bytes Count を 1000 MB、Handle Count を 5000 に増やしてください。 |